



コウノトリの親子

コウノトリの営巣・繁殖が行われている雲南市大東町では、4年連続で4羽の雛が孵化しました。

写真にある雛は2020年4月に誕生、7月1日までに4羽すべてが無事巣立っていきました。

撮影年月日 2020年6月21日(日) 撮影者 雲南地区保護司会 藤原 静雄



第21号

令和3年2月1日発行

雲南地区保護司会
(事務局:雲南市木次町木次1012番地1)
<TEL・FAX(0854)42-3550>
題字揮毫:陶山頼子 保護司
印刷:出雲総合印刷企画社



子どもたちに

変わらぬ愛の手を

雲南市教育委員会 教育長 景山 明

「もう一度その芽をのばす やさしい目」「立ち直る友へ愛の手 支援の手」

この二つの標語が目飛び込んできたのは、師走も近づいた十一月下旬のことでした。一軒の店の軒先にある、お世辞にも目新しいとは言えないプレートに書き記してあったこの標語に私は暫く見入ってしまいました。「やさしい目」「愛の手 支援の手」の響きは、新型コロナウイルス感染者への誹謗・中傷、さらには悪質なフェイクなニュースが後を絶たない現在の世情に日々接していると、何か心にはのぼのとした暖かさ、潤いを与えられているような気持ちになりませんでした。

私たちは今、これまでに経験したことのない日常生活を送っていると、言っても過言ではないと思いますが、雲南地区で献身的な活動をなさっている保護司の皆様は、変わることない「やさしい目」で更生指導や就労援助などの「支援の手」を差しのべておられることに對しまして、改めて深甚なる敬意と感謝を申し述べたいと思います。

私も三十七年間教職に就いておりましたので、その間には保護司の方にお世話

になった子どもたちもいました。そんな子どもたちに対し、保護司の皆様は常に我慢強く、温かく、時には厳しさをもって接していただきました。あの子ども達は今どうしているだろうか、この文章を書きながら、切ない想いに駆られてしまいました。

雲南地区に限らず全国の保護司の皆様による懸命な活動にもかかわらず、法務省によると検挙される少年の人数自体は減少傾向にあるものの、少年検挙者のうち、再び非行に走る人の割合は二〇一六年には三七・一%と過去最悪を記録したとのことで、残念の極みですが、非行行為は元より再犯防止のために教育の果たすべき役割の大きさは誰もが認めるところだと思えます。

子どもたち一人一人が持っている素晴らしい資質・能力を家庭、学校、地域として行政が手を携え、協働して健やかに育む。こうした地域社会の姿を思い描きながら今後とも教育行政を進めて参りたいと考えておりますので、保護司会の皆様には変わらぬご理解、ご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和二年 主な活動状況

コロナ禍における報告

会長 駿馬重弘

五月に予定していましたが総会と第一期研修は中止、また県外での視察研修や協力雇用主会の開催も中止せざるを得ませんでした。

七月の「第七十回社会を明るくする運動」と



「再犯防止啓発」について、写真のよう
に総理大臣のメッセージ伝達式は規模を縮小して行われました。非接触型の宣伝としてケーブルテレビを活用した文字放送を流しました。
小・中学生を対象とした作文募集

は例年通り実施しました。ご協力に感謝いたします。

保護司全員に対する定例研修は三回の内九月と十一月の二回実施できました。

またケースをもっている保護司に対する研修がありました。これは六月と十一月に行いました。

鳥根保護観察協会会員募集には多くの方に会員になっていただきました。お礼申し上げます。

広報誌「こころ」の発行は計画通り二回できました。

新しく保護司になっていただく方の推薦について各界から出席、審議していただく「保護司候補者検討協議会」は、昨年八月に第一回目を開き、今年の二月に第二回目を開く予定です。

以上コロナ禍でいろいろ制約を受ける中ではありましたが、なんとか活動ができました。これも皆様方のご支援、ご協力のおかげです。ありがとうございました。

仁多支部自主研修会

理事 森合俊雄

八月二十三日「発達障がい」についての研修会を開催しました。

私たちが仁多支部においても処遇会議を開催していますが、行事の打ち合わせ等がどうしても中心になりがちの中で、自己研鑽のためこの度の研修を計画しました。

講師は、発達障がいに関する相談・支援等の業務を行っている鳥根県東部発達障害者支援センターの石橋美恵子センター長にお願いしました。



発達障がいの種類と特性についてまずお話しいただき、かわり方のポイントとして、本人の行動に気づき、その意味・背景に目を向け理解することが必要であること、障がい特性を勘案しつつも、一人ひとり違うということも考えて対応しなくてはならないこと、また曖昧な言葉ではなく明確で具

体的な言葉で指示することが必要であること等々、経験に裏打ちされた多くの事柄をご教示いただきました。

コロナ禍の中で実施できるかどうか危ぶまれましたが、予定していた二時間を質疑も含めてフルに使っての充実した研修会となりました。

雲南地区保護司会 掛合支部の活動

掛合支部 石 飛 由美子

十一月十日、掛合交流センターにおいて、飯石地区更生保護女性会の新人研修がありました。

この日、私達雲南地区保護司会掛合支部のメンバーは、社会を明るくする運動の一環としての活動、ペープサートと手袋人形劇を披露する機会を得ました。

当日は、雲南地区保護司会駿馬会長による「保護司とは」の講演があり、その後のお楽しみとして、私達のペープサート、いじめっこのホゴちゃん、と手袋人形劇、あしによきによき、が出演する、の流れです。

何といっても、にわか劇団、舞台裏ではてんやわんや、語りに合わせて人形を動かすのですが、みなさんには、いい具合に見えていたので



しようか？時々、いい反応もあり、何とかお互いがアウンの呼吸で人形達を操作。無事に終わることが出来ました。

「保護司会と更生保護女性会が、共にかかわり合いながら、活動を進めていく大切さを感じた。」と、感想もいただきました。

半日の研修会でしたが、双方の活動の理解が深まったのではないかと、思いました。

私達の活動が、今回研修会に参加されましたみなさんの、今後の活動のお役に立てるのならうれしい限りです。

第70回 社会を明るくする運動作文コンテスト結果

作文審査で思うこと

審査委員 佐藤 幸男

今年もたくさんの作文応募がありました。私たち二人の審査員の仕事は、小学校、中学校それぞれ五、六、七、八、九、十、十一、十二の各学年から優秀作品を選ぶことです。私は、「社会を明るくする運動の趣旨にあっているか」「言いたいことが素直に伝わってくるか」を基準にして選びますが、今年も力作ぞろいで悩みました。

テーマとしては小学生には難しいので、事前指導のあるなしでずいぶん違ってきています。中には、学級で事前に学習や話し合いをして取り組んでいる学校もありました。社会を明るくする運動の趣旨を理解し、みんなで考える機会を持つことは、とても重要なことだと思います。

そして、自分の生活や身の周り、世の中を見つめ、自分の想いを作文にする。こうした取り組みが、多くの学校に広がって行くことを願っています。

応募状況

雲南地区審査選考会 9月13日(金)

- 小学校 13校 (29校中) 45点応募、推薦5点
- 中学校 9校 (11校中) 20点応募、推薦5点

作文コンテスト入賞作品

島根県BBS連盟会長賞

小学校の部

犯罪が起こらない世界にするには

奥出雲町立阿井小学校

六年

石原 陽菜花

「俺、コロナだぞ。」

犯人は、そう言いながら、職員につばをはいたそうです。私が見たニュースの中でも、特に気になったので、私はくわしく調べてみました。

まず分かったことは、犯人はコロナウイルスに感染しているわけではなかったことです。私は、なぜ「俺、コロナだぞ。」と、うそをついたのが気になりました。さらに調べると、事件が起きた場所は、住民の健康づくりや交流の拠点となる施設で、コロナウイルス感染拡大防止のため、事件が起きたときは、その施設は休館中だったことが分かりました。また、犯人は被害にあわれた方に外に出るよう言われ、犯行

におよんだということも分かりました。

私は、寄りそってほしかったのではないかと自分の居場所をつくってほしかったのではないかと思います。コロナウイルスのえいきょうで、いろいろな施設が制限を受けています。利用したかった人も、がまんをしないとけない状況です。事件が起きた施設は、住民の交流の場になっていたと思います。人とつながりたいという願いがかなわず、いかりに変わり、犯行におよんでしまったのではないかと思います。きっと、この犯人は、すごく苦しんで反省もしていると思います。だから、犯罪を起こしてしまった人が、差別されない、もどってきやすい社会をつくっていききたいと思います。

私は、犯罪を起こしてしまった人は、周りの人から差別されるのではないかと、という思いがあって、社会にもどりにくいと感じていると思います。だから、犯罪を起こしていない人たちが「この世界に、あなたの居場所はあるよ。」と教えてあげる必要があります。

私は、まだ大きなことはできません。しかし、ふだん当たり前にしていることが、明るい社会をつくるために大切なことだと考えます。例えば、あいさつです。あいさつをして、いろいろな人とつながりをつくることは、あなた一人じゃないというメッセージを伝えることになると思います。また、お年寄りの方とお話することも意味があると思います。私の住んでいる地域には、たくさんお年寄りの方がおられます。なかには、お年寄りの方だけで暮らしておられるところもあります。そういう方たちと出会ったときに、少しお話するだけで、とても元気になると思います。あなたの居場所はここだよというメッセージを伝えられているからだと思います。

今は、明るい社会をつくるために、少しのことでしかできないけれど、今、私がしている当たり前のことに、とても大きな意味があるのではないかと思います。

山陰中央新報社賞

中学校の部

自分を変えられるのは自分だけ

飯南町立頓原中学校 二年 渡辺夏未

「犯罪者。」それだけでどれだけ多くの人がその人との間に、一瞬にして高くて長い壁をつくってしまうことか……。私もその一人である。差別かもしれない。悪意はなかったかもしれない。けれど壁が崩れることはないし、登ることも、横から回ることもその人にはできないと私は思う。でもその人が心から反省して自分を変えることができるのなら、壁の強度は弱くなり、高さは低くなって、幅は短くなるかもしれないとも、私は思う。

犯罪は、多くの人や物を傷付け、なくなってしまうかもしれない。しかし犯罪は減ることを知らないようだ。テレビなどのマスメディアで連日報道される痛ましいニュースには、いつも胸が締めつけられる。

私が最近、特に目に焼きついていて忘れられないニュースの記事は、女子大学生のよそ見運転による四十代男性の死亡事故である。

犬の散歩中だった男性が、「LINE」の返

信をしながら軽自動車を運転していた女子大

生にはねられたというのが、今回私が注目した

ニュースの内容である。私はこの記事を目にした

時、信じられなかった。女子大学生の安全意

識と、命を簡単に奪ってしまう可能性がある乗

り物に乗っているという自覚が足りないと思

った。それと同時に、怒りと悲しみがわいて

きた。ネットからは「どうして被害者の名前は

公表しているのに加害者の名前は公表していな

いのか。もう大学生なのに」「LINE」の返信

はいつでも返せるけれど、人の命は一度奪った

らもう返すことはできない」など、様々な声が

上げられていた。

罪を犯した「犯罪者」にも、一部の人を除いて

はまだまだ人生という道を歩む権利がある。

しかし、新しい人生を送るためには自分自身を

変える必要があると私は思う。「あの人のお陰

で自分は変わった、変えることができた」とい

う人は、正しく生きてきた人の中でもたくさん

いると私は推測する。確かに影響を与えてくれ

る人はいると思う。私も今まで複数の人の影響

を受けたことがあるため、そう思った。影響は

他の人から与えられるものだが、自分を変えら

れるのは結局自分だけだと私は思う。自分で自

分を変えようということはすごく難しい。なぜな

ら、私自身がなかなか自分を変えることができ

ないからだ。だから自分を変えることができた

「犯罪者」は、新しい自分自身と新しい人生を

送れると、私は信じている。

「元犯罪者」「現犯罪者」「犯罪者」というレッ

テルは一度貼りつけら

れると、もうはがすこ

とはできない。けれど

自分を変えれば新しい

未来が待っていると私

は感じる。

「未来の犯罪者」と

「未来の被害者」を一

人でも減らすために

は、一人一人の意識と

自覚が大切だ。もし今

の自分を変えたいと思

うのなら、自分で変え

ていく必要があると私

は心から感じる。



おめでとうございます

令和2年度 秋の褒章 ○藍綬褒章 加本 恂二 (大東)

令和2年度更生保護関係顕彰者【雲南地区保護司会関係者】

- 法務大臣表彰 土谷文江 (大東)
- 全国保護司連盟理事長表彰
多賀 久 (吉田)・清原 樹 (赤来)
- 中国更生保護委員会委員長表彰
石飛由美子 (掛合)・川本晃代 (仁多)
陶山隆樹 (三刀屋)・松村千弘 (掛合)

- 松江保護観察所長表彰
齋藤静代 (木次)・堀江三智江 (吉田)
- 島根県保護司会連合会会長表彰
安部茂寿 (横田)・鳥屋尾寛子 (三刀屋)
藤原 茂 (大東)

褒章受章にあたって

大東支部 加本 恂二

令和二年秋の褒章に際し、予期もしなかつた藍綬褒章の栄に浴することになり、身に余る光栄と、感謝感激するとともに汗顔の思いでございます。

これも偏にご指導戴きました松江保護観察所をはじめ関係機関各位、諸先生方、並びに地域の皆様方のご理解とご支援の賜物と心か

ら感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。

昨年から引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響により、犯罪の事例や対象者の生活環境も大きく変化し、都市・地域を問わず仕事・日常生活に対する適切な対応が求められて、私どもの活動も多岐にわたり一層重要性を増してきております。

この受賞を機に、犯罪のない明るい社会づくりを基本に努力を重ねて参る所存でございますので、引き続きご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

法務大臣表彰を受賞して

大東支部 土谷 文江

令和二年度の顕彰式典において図らずも法務大臣表彰を受賞することになりました。

受賞できました事は偏に保護観察官・サポートセンターの皆様・雲南地区保護司会の皆様のお陰と感謝致します。ありがとうございます。

平成十四年保護司に就任以来、対象者との

面接するなかでその背景にある複雑な悩み、ストレス苦悩を理解することはほんとうに難しいことですが傾聴することにより、信頼関係が生まれ、更生への一歩が始まると信じ今日までやってきました。

今年は新型コロナウイルスの影響で経済的困窮者、失業等大きな社会問題になっています。

一日も早い収束を願い犯罪・非行のない社会を願ひ、残された任期微力ながら努力してまいります。今後共御指導よろしく願ひ致します。

退任保護司あいさつ

只管 感謝

大東支部 三木 弘道

思い起せば昭和五十九年十二月、若千四十一歳で保護司に委嘱されて、よもや任期満了まで務めさせて戴けるとは夢にも思っていないませんでした。

先ずは健康でその任に耐えなければなりません。保護観察ケースも持たせて戴き彼らとの出会いは私自身学ぶことも多く、今でも交流しています。

とかく過去の出来事を打ち消したいために保護観察期間満了後は保護司との関わりに逃避しがちですが、一社会人として普通に交流出来ることに感謝、感謝です。

また保護司会の役職を多年務めさせて戴き、優秀な先輩、同僚、後輩と研鑽出来たことは何よりの財産となりました。

江湖の皆様にも心の底から感謝し厚く御礼申し上げます。

保護司会の益々の発展及び会員各位のご健勝、ご清祥を祈念申し上げます。

本当にありがとうございます。合掌。

保護司を退任して

掛合支部 山中 洋美

幸いなことに、前任者も私も一度も対象者に関わることなく二十四年の任を終えることができました。個性豊かな先輩諸氏に多くのことを学び、充実した時を過ごさせて頂きました。社明運動以外に何かお役に立てないかと、七十歳のとき、観察所を通して美保の少年院の院生との関わりを始めました。さて翌年も思ったら、院生が四人に減り、活動中止。以後は、地域の子供たちに関わる活動をしてきました。学生時、BBSに所属、当時の救護院で二週間の実習など、今思うと、ずっと子供たちと関わりのある半生だったと思います。

保護司を退任しても、更生保護女性会には定年がありませんから、地域の一住民として子供たちを守り続けていきたいと思えます。

掛合町入間 八重滝



加茂町三代 段部のしだれ桜

新任保護司紹介

新しく保護司に就任しました。
よろしくお祈りいたします。

| 支 部 | 氏 名 |
|------|-------------------|
| 大東支部 | かわしま かずき 川島 一樹 |
| 加茂支部 | わたなべ かよこ 渡部香代子 |



編集後記

二〇二一の丑年を迎えました。昨年は今までに経験をしたことのない未曾有の新型コロナウィルス感染症の猛威、その勢いは未だ衰えず、刻々と変化、忍びよるウィルス、今年は感染症に負けない「モウーいわ」と、新しい生活様式で乗り切り、一刻も早い終息を迎え、安心安

全な生活を取り戻していくために工夫をしながら日々の生活を送りたいものです。(若月 薫)

編集委員長 妹尾 和明
 編集委員 岡田 礼子
 編集委員 若月 薫
 編集委員 早水 守
 編集委員 永田 一博

令和2年度雲南地区保護司会組織図

(令和3年2月1日現在)

